

新しい出会い

熊本県 下益城城南中学校 1年 美崎 彩音

4月14日に起こった熊本地震。突然のできごとに怖い思いをたくさんしました。けれども、その地震を通じて、私はさまざまな人と出会い、すてきな思い出ができました。

地震が起きて、生活では困ることがたくさん起こります。私の家も片づけをしないと住めなかったり、ライフラインが止まってしまったりと大変でした。慣れない生活に疲れ、気分も沈んでいきました。

そんなときです。近所に住んでいる方が私たちにパンを分けてくださったのです。大変なときで貴重な食料なのに、親切な心で渡してくださいました。このできごとをきっかけにパンをくれた家族の方々となかよくなりました。

この家族には2才の小さな女の子がいます。女の子は私に懐いてくれて、会うたびに、「おねえちゃん！」

と、大きく手を振りながら呼んでくれます。その姿がとてもかわいくて、いつも笑顔になれます。「火の君マルシェ」で車中泊をしていたときもそうでした。車で寝るのは家よりもせまくてきついし、布団がありません。辛いときでしたが、たまたま女の子の家族も同じ場所で車中泊をしていました。声をかけて、お話をしました。寒いから、と言って温かいココアをくれる気づかいまでしてもらい、体も心もほっこりしました。女の子はそのうち退屈したのか、保育園で習ったという歌を聞かせてくれました。どれもなつかしい歌ばかりで楽しかったです。自然と笑顔になっていて、地震のことを忘れていました。

その後、私は家族みんなで祖母の家に避難しました。この地域は地震の被害がほとんどなかったのですが、念のため避難所へ行きました。お年寄りの方が多くいらっしゃいました。そこで私は、母といっしょにお茶をいれたり、座布団をしいたり、食料を分けたりと、自分がされて嬉しかったことをしました。すると、どの方もみんな、

「本当にありがとう。」

と、感謝の言葉を口にしてくれます。それがとてもやりがいを感じさせてくれました。

また、近くの店も被害がなかったのか、普段通りに営業されていました。生活に欠かせない物を買そろえ、余震が収まってきたので自分の家へ帰りました。そして、パンをくださった家庭にはもちろん、ほかの近所の方にも飲料水やパンなどを配りました。恩返しをきちんとできたのでよかったです。心が温まりました。

熊本地震が起こり、怖くて辛い思いをたくさんしました。生活環境が変わることもありましたが、しかし、このできごとを乗り越えるため、周りにはいる人たちと協力し、助け合いをするなかで、すてきな思い出ができました。小さな女の子とは、今でも会うと話したり、手を振ったりします。この出会いも助け合いをしていなければありませんでした。

私は、大変なことが起こったときこそ、人のためになることを行うのが大切だと学びました。中学校生活でも、よいことを積極的に行っていこうと思います。地震のときのように、新しい出会いがあるかもしれません。身の回りに起こることを乗り越え、思い出に残していきたいです。